

2024 岩国行動

11月16日・17日、岩国反基地国際行動に執行部4名で参加してきました。

大阪を出発するときは雨模様でしたが、現地の岩国は天候も良く、岩国労働者反戦交流会には全国各地から80名を超える仲間が結集し、岩国基地の問題をはじめ、全国各地から闘争報告がありました。

全港湾大阪支部からは関谷書記次長が、特定利用港湾・空港について発言があり、これらの問題にどう立ち向かうのか考えさせられる報告で、最後には港湾施設や空港を軍事利用させてはならないと力強く発言していました。



その後、懇親会で仲間のみんなと団結を高めました。その中で北九州ユニオンから「北九州ユニオンから九州ユニオンを目指す」と決意表明がありました。組織拡大は大阪支部でも最優先課題であるため、決意表明を聞き、勉強させてもらいました。

17日9時30分から、岩国国際連帯集會がおこなわれました。AWC韓国から、韓国でも軍事行動の増加や、韓米軍の戦力一体化などが懸念されており、武力衝突を避け、対話の道を探し、非核化、の実現、戦争をさせないように頑張っていきたいと報告がありました。

また、沖縄からの報告では辺野古住民訴訟や現地の現状報告があり、行政は佐賀県に対しオスプレイ基地建設の説明をおこない、こ

ういった基地が周辺諸国に対して脅威を与えていると発言していたそうです。

岩国現地報告でも「岩国基地を再び侵略戦争の基地とさせないために」についての報告があり、基地建設は容認できないと確認できました。

ソウル全国労働者大会に参加

11月9日～12日、ソウルで9日に開催される全国民主労働組合総連盟（民主労総）のチョンテイル烈士精神継承全国労働者大会に大阪支部から田村執行委員と2名と、8日から参加している連帯労組の2名と合流し参加した。

労組弾圧、生活破壊、戦争推進のユンソンニョル政権はこの大会を阻止しようと警察、機動隊を動員しバリケードなどで集会の阻止をしたため、あらゆるところで衝突があり負傷者が出た。ここ数年の機動隊員らによる職務上の負傷者数では最も多かったと報道もあり、その場面に遭遇したときは労働者のエネルギーを実感した。



この大会は、1970年11月にソウルの平和市場で「勤労基準法を守れ!」「私たちは機械ではない!」と叫んで自らの体に火を放った青年労働者チョンテイル烈士の精神を継承することを誓い、毎年11月に開催されている。今年も全国各地から昨年を上回る10万人の労働者民衆が結集した。過剰な警備体

午後から、50名を超える仲間と共に岩国基地までデモ行進をおこない「基地反対!オスプレイはいらない!」と声をあげデモを貫徹しました。

最後に、岩国行動に参加し、日本に米軍基地はいらないこと。そして反戦運動をする仲間を増やしていき、基地がなくなるまで運動を続けていくべきと感じました。
(執行部 岡田 大)

制を実力闘争で打ち破って都心で全車線を占拠する大集会を勝ちとり、労組弾圧と生活破壊、戦争推進のユンソンニョル政権に怒りを爆発させた。

大会終了後、民衆労総が用意した大型バスで約3時間移動し、翌日、全州市で民衆労総全北本部で討論会を開催した。日本側から連帯労組の弾圧と運輸産業の現状、反戦の取り組みを報告した。

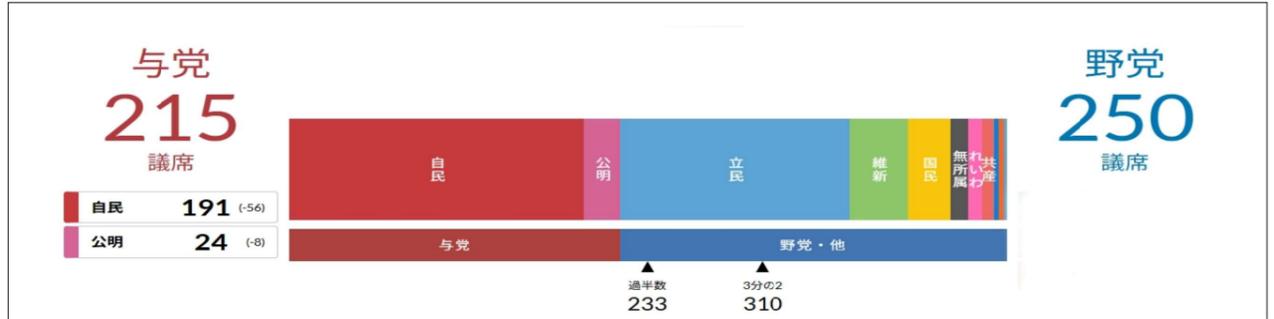
重要な日韓労働者交流

この交流は、1989年のアジアスワニー闘争の日本遠征にて、韓国と日本の労働者が団結して闘ったことを契機に始まり、1996年、民主労総全北本部の結成からは、定期的に、お互いに訪問や学習会を繰り返して草の根交流を行ってきた。今年、民主労総全北本部の執行部が選挙で全員入れ替わり、国際連帯が継続できるのか不安だったが、210万人の組織の幹部は「日韓交流継承は重要だ。先輩方が争議で闘ってきた同志として今後も歓迎したい」と言われ、顔を見せる交流の重要性と無限の可能性を秘めていることを改めて確信することができた。

(副委員長 陣内 恒治)



発行 大阪市港区築港1-12-27
全日本港湾労働組合関西地方大阪支部
発行責任者 陣内 恒治



第50回衆議院議員選挙の結果から

執行委員長 小林勝彦

2024年10月、自民党総裁選で勝利した石破総裁が、第102代内閣総理大臣になった後、野党との十分な議論も交わさず戦後最速の8日後に解散した。いわゆる「裏金隠し解散」である。この裏金問題をうやむやにした第50回衆議院議員選挙は、10月15日公示、27日投開票と各陣営慌ただしく動いた。



支部も解散報道後、すぐさま選挙態勢を整え、社会民主党の長崎由美子候補（大阪9区）、立憲民主党の尾辻かな子候補（大阪10区）、れいわ新撰組の大石あきこ候補（大阪5区）と、政策協定を締結し、各候補を推薦すると共に選挙ポスター張りや候補者事務所の貼り付けなど積極的に支援を取り組んだ。



結果として、「政治とカネ」を争点にする野党に対して、主だった裏金議員を公認から外す

事と物価高対策と国防を前面に「日本創生」を争点としたい自民党（自公）であったが、非公認の支部にも2000万円を支給していた事が共産党機関紙（赤旗）にスクープされた事が影響し、改選前の野党が大きく議席を増やし、自公与党の過半数を許さなかった。この事を受け立憲民主党の野田代表は政権交代に向け「自公政権の存続を望んでない人たちが、先の臨時国会で、ともに内閣不信任決議案を出した政党とは、あすからでも『誠意ある対話』を始めたい」と述べました。

しかし、野党・他（立憲民主党、日本維新の会、国民民主党、れいわ新撰組、共産党、参政党、社会民主党、諸派、無所属）と言っても参政党、また、諸派は自公と政策的に近いところもあり元々、野党の皮を被った与党と揶揄されていた日本維新の会や無所属で立候補した当選議員

の自民党復帰の事を考えると政権維持の可能性も警戒しなければならぬ。また、野党が大連立政権を叶えたとしても、政策的に大きく違う方針の政党とどの様に調整していくのか？また、政権発足しても維持ができるかが課題となりハードルは高い。



いっぽう大阪小選挙区の19区が、すべてが日本維新の会が当選するという屈辱的な現実を忘れてはならない。大阪の有権者（投票者）の選択は自公の受け皿は維新だという事で、その他の「立憲野党」ではないという事であり同時に本当の野党共闘ができていない事を露わにした結果である。この現実を踏まえ大阪支部は支援する政党や議員（候補）にも意見が言える様に支部方針と政策を照らし合わせ精査していかななくてはならない。

おおさか 輝け憲法！
おさがかり集會
平和といのちと人権を
 2024年11月3日 大阪市中央公会堂 大集会室

11月3日、中之島の中央公会堂大集会室にて、おおさか総がかり行動実行委員会主催の「輝け憲法！平和といのちと人権を11・3おおさか総がかり集會」が開催されました。

11月3日は日本国憲法が公布された日、毎年、憲法集會が開催されています。

小出真理子さん（近畿労金労組書記長）の司会で、川口真由美とカオリンズのライブでスタートしました。ライブではその曲を作った経過や詩に込めた想いのなどの説明があり、熱い想いが伝わってきました。



近藤美登志さん（戦争をさせない1000人委員会大阪）の開会のあいさつの後、第1講演の清水雅彦さん（日本体育大学教授・憲法学）による「憲法入門～その歴史・意義と改憲論議を考えよう」では、憲法の歴史から最近の憲法審査会の動向まで、わかりやすく話され、衆議院選挙で改憲勢力が3分の2を下回ったが、今後も注視する必要があるとして、3つの提案「職場や地域で、憲法で保障された権利・自由を行使していく、学習会・集會・デモに参加し労働組合に入りなさい」「運動体として、全国各地で本気で労組と市民と野党の共闘を作る」「個人として、自己満足に終わらない、若者に働きかける、自己規制・忸度しない」を提起されました。

◇

第2講演は小川たまかさん（フリーライター）による「ミソジニーは家父長制に抗う女性の制裁欲」で、ミソジニーとは男性社会に抗う女性を嫌悪することであり、女性の問題ではなく構造的な問題で、性別によって差別されない社会の実現を訴えられました。「女性がたくさん入っている会議は時間がかかる」「そんなに美しい方とは思わないけど、このおばさん、やるねえ」「女性はいくらでもウソをつく」「常に選挙を考えて政治活動・・・それを実行できる女性はかなり少ないと思う」などのセリフを聞けばわかりやすかったです。日本国憲法では第14条に、すべての国民は、法の下に平等で

トラック部会
清掃ボランティアに参加して

11月17日(日)、茨木市にある北大阪トラックターミナルにおいて、第1回トラック部会清掃ボランティア活動に参加してきました。

大阪府トラック協会からの呼び掛けに、交運労協、運輸労連、県交労、全港湾、約20名。全港湾からは阪神支部3名、大阪支部2名で参加してきました。



朝10時に集合して、北大阪トラックターミナル外周を各労組毎に分かれての清掃活動。

ゴミの種類としては、コンビニ弁当の空き箱や空き缶ペットボトルが目立っていたと思います。夕

あって、人種、信条、性別、社会的身分または門地により、政治的、経済的または社会的関係において、差別されないとなっています。これは組合の規約にも同じ様なことが書かれています。

最後に丹羽徹さん（大阪憲法会議幹事長）の閉会のあいさつで集會を終えました。集會には13分会、執行部含めて58名の参加があり、全体で約1200人の参加でした。

今年の衆議院選挙の結果、自公政権は過半数割れしました。しかし、改憲勢力となると維新の会や国民民主党も含まれ、3分の2近くになり予断を許しません。日本国憲法は世界的にも平和憲法として認知されている素晴らしい憲法です。子や孫に戦争をさせないためにも、憲法改悪反対！

（書記次長 関谷 和人）



バコの吸い殻は思ったほど落ちていない感じでした。

「ドライバーが運転席で食事しなくてもすぐせる環境になって、ポイ捨ても無くなるのが目標です」と主催者あいさつがありました。

次回は来春、南港トラックターミナルを予定されています

（執行部 宮脇 祥三）

ユニオンネットワーク総行動
— 秋の総行動第1弾 —

11月11日は介護の日

11月11日、おおさかユニオンネットワーク主催で、山紀会と愛仁会本部に抗議行動をおこないました。大阪支部からは執行部4名が参加しました。

山紀会については、労働委員会で10件以上もの不当労働行為が認定され、会社が組合活動に対して損害賠償請求をおこなっていましたが、それらも会社の不法行為が認められる判決が出されています。



これらの命令や判決が出されたにもかかわらず、山紀会は態度を改めず、労働組合の拠点職場である訪問介護事業所の閉鎖を通告してきました。地域の介護を支える訪問介護を身勝手な理由で潰すような行為に対して40名を超える仲間が抗議の声を挙げました。

その後、社会医療法人愛仁会本部移動し、抗議行動をおこないました。

当該である看護師の方は1年以上に及び職場での無視、会話の拒絶、業務の一方的変更、残業代の不払いなどのパワハラ行為を受けていました。裁判は提訴から3年経ち、事件から5年が経過しています。当初、法人はパワハラの実事を認めていましたが、裁判がはじまると否認に転じました。証拠書類の提出も拒否していましたが

裁判所から文書提出命令が出されました。このような命令が出されるのは異例であり、事件の悪質さが

中央バス・タクシー合同会議

11月16日、大阪港勤労福祉会館にて第1回中央バス・タクシー合同会議が開催されました。旅客自動車運送事業の分会は関西だけになるので大阪で開かれています。

中央から、関東地本東京支部の古田将也中執、関西地本阪神支部河野照宣中執、参加者は、阪神支部執行部、神戸支部は、山陽バス分会、本四海峡バス分会、大阪支部から6名（執行部、大阪メトロ・大阪シティバス・さくらタクシー分会）参加、総勢20名が集まりました。

交運労協の小島哲事務局次長から「自動車運送業における特定技能外国人について」と「ライドシェア新法制定阻止に向けて」について講義を受けました。

現在、労働者が不足し、人材確保が困難な産業分野において、一定の専門性や技能を有する外国人の受け入れることを目的として、2019年から特定技能外国人受け入れが開始、2024年3月29日には新たに4分野の追加が閣議決定され、自動車運送業、鉄道関連も、受け入れる事となりました。

しかし、実際働くとなると高い語学力と専門知識を必要とされ、また、5年という在留期間しかありません。円安で賃金にも魅力のない産業に人が集まるのかも疑問が残ります。

タクシー産業において、歩合制主体の賃金制度に起因する収入減や感染リスクから運転手不足によ

伺われます。

大阪支部は、おおさかユニオンネットワーク加盟組織として、このような問題にも声を挙げ、団結力をもってこれからもたたかっていきたいと思ひます。

（教宣部長 佐久原智彦）

り、ライドシェア導入論が急展開をむかえた。運行管理や車両整備を所管する国土交通省は大反対であったが、デジタル行政改革などを所管する経済産業省がライドシェア新法制定に意欲を燃やし、4月からタクシー事業者の運行管理による「日本版ライドシェア」が開始されました。しかし、規制改革を進めたい推進派は、法改正や新法制定を推し進めようとしています。



現在は「規制所管府省と事務局の間で現時点では具体的な合意に至らなかった」として「今後の検討課題」と記載されるにとどまったが「タクシー事業者以外の者が行うライドシェア事業を位置づける新たな法制度について、次期通常国会の法案提出を視野に、年末に向けて法案化作業を直ちに開始すべきである」とされました。

今後も、ライドシェア導入にはタクシー業界だけではなく、利用者の安全面からも反対していかなければならないと感じました。利益優先につながる規制改革を進める経済産業省についても抗議していかなければなりません。

（副委員長 吉本 賢一）